

8

千代田区景観まちづくり重要物件

区立九段小学校

指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 三番町 16 番地

設計者 東京市臨時建設局学校建築課

竣工 1926（大正 15）年
2018（平成 30）年 7 月建替え

文化財等
指定状況 景観重要建造物



▲通りから見た九段小学校の様子

歴史・文化的特徴

前身である上六尋常小学校は 1903（明治 36）年に創立されましたが、創立当初の校舎は関東大震災により焼失し、1926（大正 15）年に復興小学校として建替えられました。

復興小学校は、東京市の設計技師たちが不燃化・耐震化のみならず、避難安全、採光窓、スチーム暖房、水洗トイレなど、児童の良好な教育環境のために最先端の技術を注いだ造りであり、経済産業省の「近代化産業遺産群」の震災復興関連遺産として認定されています。

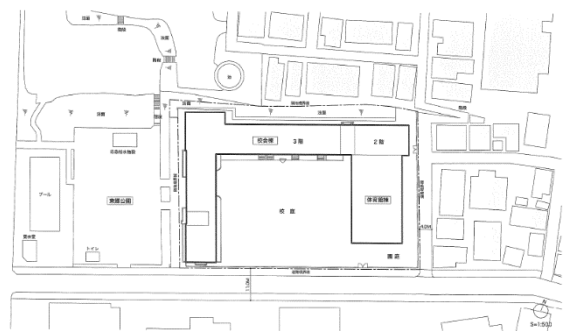
施設老朽化に伴い、2012（平成 24）年から建替えの検討が始まり、2018（平成 30）年 7 月に新校舎が竣工しました。新校舎は、復興小学校建設当初の外観（アーチ形の窓や時計台）を再現し、歴史的価値の継承が図られました。また、西棟校舎の一部は旧校舎が部分保存・復原されています。新旧デザインの調和と、創建当初の意匠を活かした保存のあり方が評価され、2020 年度グッドデザイン賞を受賞しました。



▲建替えられる前の校舎の様子

意匠・構造の特徴

建物の平面計画はコの字型で、小学校に小公園を隣接させるという、震災復興小学校の基本的な配置計画が踏襲されています。建物は、鉄筋コンクリート造で、校庭に面したファサードや塔屋アーチに特徴があります。外壁は縦長の窓を連立させて垂直線が強調され、最上階の窓は放物線のような尖ったアーチが用いられています。時計塔でもあるペントハウスは、アーチ屋根に矩形のドーマー窓が突出する珍しいデザインです。このような表現主義と呼ばれるスタイルは、震災復興小学校建築でも初期に特徴的に見られましたが、現存するものは少ないです。



▲校舎の配置計画図

周辺景観との関係

放物線アーチ窓の校舎は、創建当時より地域のシンボルとして親しまれてきました。

公道からは樹木の陰となり、視認性は高くありませんが、隣接する公園などに創建当時の風景が引き継がれており、開放的な校庭と共にゆとりと潤いを感じさせる景観を形成しています。

敷地は決して広くありませんが、公園側に玄関を置き、十分な引きをもって、対称性を表現したファサードが見られるようになっています。